

ハ免除シ又ハ純益金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設ケルコトヲ得

第十四條 昭和十五年一月一日以後產出シタル釀產物ノ對シテ釀產稅額又ハ特別釀產稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該稅額ノ純益ニ對シテ昭和十六年分ノ釀產稅額ヨリ之ヲ扣除ス

第四十五條 第十六條ノ規定中三十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ四月三十日トス

第四十六條 貯蓄銀行法第二十條ノ削除(參照)

大正十四年四月廿四日法律第七十四號 貯蓄銀行法抄錄

第二十二條 貯蓄銀行營業者ハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

昭和三十五年三月二十九日
內閣總理大臣 米内 光政
大藏大臣 櫻内 幸雄

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第三十四號
地租法中ノ改正ニス

第二條 第三號中「招徠地」ヲ「護國神社地」ニ改ム

第十條中「百分三・八」ヲ「百分二・二」改ム

第八十二條第二項ヲ削ル

第一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム
地租ノ每年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス
第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限
第三期 翌年五月一日ヨリ三十一日限
第四期 翌年七月一日ヨリ三十一日限
第五期 翌年九月一日ヨリ三十一日限
第六期 翌年十一月一日ヨリ三十一日限

第十四條 自作農地免租地ニ付テハ其ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第十五條 左ノ一ニ依リ之ヲ徵收ス
一 第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
二 第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限
三 第三期 翌年五月一日ヨリ三十一日限
四 第四期 翌年七月一日ヨリ三十一日限
五 第五期 翌年九月一日ヨリ三十一日限
六 第六期 翌年十一月一日ヨリ三十一日限

第十六條 本法ニ於テ無租地ト稱スル地租免租地及免租地ニ付テハ其ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第十七條 第一項ノ納期開始時ニ於テ納稅義務者(法人ノ除キ)ノ住所所在地市町村及隣接市町村內ニ於ケル田畑實價價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納稅地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ耕作セザル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 本法ニ於テ釀酒ト稱スル地租免租地及免租地ニ付テハ其ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第十九條 本法ニ於テ釀酒ト稱スル地租免租地及免租地ニ付テハ其ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第二十條 本法ニ於テ釀酒ト稱スル地租免租地及免租地ニ付テハ其ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊前ノ例ニ依ル

第十四條 釀酒稅額ノ規定中從前ノ實價價格ニ依リ釀酒稅額ノ四倍トアルハ昭和十五年分地租ニ付テハ從前ノ實價價格ノ百分ノ二ニ相當スル金額ノ四倍トス

(參照)

昭和十五年四月廿四日法律第七十四號 釀酒稅法抄錄

第一條 左ノ一ニ依リ釀酒稅額ヲ徵收ス
一 第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
二 第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限
三 第三期 翌年五月一日ヨリ三十一日限
四 第四期 翌年七月一日ヨリ三十一日限
五 第五期 翌年九月一日ヨリ三十一日限
六 第六期 翌年十一月一日ヨリ三十一日限

第十四條 釀酒稅額ノ規定中從前ノ實價價格ニ依リ釀酒稅額ノ四倍トアルハ昭和十五年分地租ニ付テハ從前ノ實價價格ノ百分ノ二ニ相當スル金額ノ四倍トス

(參照)

昭和十五年四月廿四日法律第七十四號 釀酒稅法抄錄

第一條 左ノ一ニ依リ釀酒稅額ヲ徵收ス
一 第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
二 第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限
三 第三期 翌年五月一日ヨリ三十一日限
四 第四期 翌年七月一日ヨリ三十一日限
五 第五期 翌年九月一日ヨリ三十一日限
六 第六期 翌年十一月一日ヨリ三十一日限

御名 御璽

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和三十五年三月二十九日
內閣總理大臣 米内 光政
大藏大臣 櫻内 幸雄
拓務大臣 小磯 國昭

第四章 原料用及輸出向酒類

第五節 納稅擔保

第四章 雜則

第五章 罰則

酒稅法

第一章 總則

第一條 酒類ニハ本法ニ依リ酒稅ヲ課ス

第二條 本法ニ於テ酒類トハアルコール分一度以上ノ飲料ヲ謂フ但シアルコール專賣法ノ適用ヲ受ケタルアルコールヲ除ク

本法ニ於テアルコール分ハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ

第三條 酒類ヲ分テテ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、果實酒及雜酒トス

第四條 本法ニ於テ清酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメテ之ヲ濾過シタルモノ
二 米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ米麴米ヲ含ムノ重量ヲ超ニザルモノヲ原料トシテ醱酵セシメテ之ヲ濾過シタルモノ

清酒ヲ清酒トシテ納稅シタルモノハ之ヲ清酒ト看做ス

第五條 本法ニ於テ合成清酒トハアルコール、燒酎又ハ清酒ト他ノ物品トヲ混和シテ製造シタル酒類ニシテ其ノ香味、色澤其ノ他ノ性状ガ清酒ノ類似スルモノヲ謂フ

第六條 本法ニ於テ濁酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメテ之ヲ濾過セザルモノ

二 米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ヲ原料トシテ醱酵セシメテ之ヲ濾過セザルモノ

第七條 本法ニ於テ白酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ醱酵シタルモノ
二 前條ニ掲グル原料ノ外水ヲ混和シテ醱酵シタルモノ

第八條 本法ニ於テ味淋トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 米及米麴ト燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ濾過シタルモノ
二 前條ニ掲グル原料ノ外味淋、味淋類又ハ水ヲ混和シテ濾過シタルモノ

第九條 本法ニ於テ燒酎トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 清酒類、合成清酒類、味淋類、清酒類、成清酒、濁酒、白酒又ハ味淋ヲ蒸餾シタルモノ
二 命令ヲ以テ定ムル物品及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾シタルモノ

第十條 本法ニ於テ麥酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 麥芽、ホップ及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ
二 麥芽、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ麥芽ノ重量ノ十分ノ五ヲ超ニザルモノヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

第十一條 本法ニ於テ果實酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 果實ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

二 果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

三 果實又ハ果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘタルモノ
一 水又ハ命令ヲ以テ定ムル除劑ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第十二條 本法ニ於テ雜酒トハ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒及果實酒以外ノ酒類ヲ謂フ

第十三條 本法ニ於テ保稅地城トハ關稅法ニ定ムル保稅地城ヲ謂フ

第二章 製造及販賣ノ免許

第十四條 酒類ヲ製造セントスル者ハ製造スベキ酒類ノ各種類ニ付製造免許一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受ケルニス

第十五條 每造年度ニ於テ清酒及合成清酒ハ各三百石、濁酒ハ百石、白酒、味淋及燒酎ハ各五十石、麥酒、萬石、雜酒ハ八十石以上ヲ製造スル者ニ非レバ製造ノ免許ヲ與ヘズ但シ清酒ノ製造免許ヲ受ケタル者ハ白酒、濁酒、味淋又ハ燒酎ニ對シテ制限ヲ、燒酎ノ製造免許ヲ受ケタル者ハ白酒又ハ味淋ニ對シテ制限ヲ適用セズ

酒造年度ニ於テ清酒及合成清酒ノ合計シテ三百石以上製造スル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第十六條 酒類ノ製造免許ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第十七條 酒類ノ製造免許ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第十八條 酒類ノ製造免許ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第十九條 酒類ノ製造免許ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第二十條 酒類ノ製造免許ハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第十七條 酒類ノ販賣業(販賣)ノ仲介業ヲ含ム以下同ジ)ヲ爲サントスル者ハ政府ノ免許ヲ受ケルニ付但シ酒類製造者ガ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一個所毎ニ之ヲ受ケルニ付

第十八條 第十四條、第十六條及前條ノ規定ニ依リ免許ノ申請アリタル場合ニ於テ左ノ各號ノ一該號ノ申請アリタル者ハ其ノ免許ヲ與ヘザルコトヲ得

一 取銷上不適當ト認ムル場所ニ製造場又ハ販賣場ヲ設ケタルトキ
二 本法ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケタル者ガ免許ノ申請アリタルトキ
三 第二十二條第一項第四號ノ規定ニ依リ至許ヲ取消サレタル者ガ免許ノ申請アリタルトキ

四 資力不充分ト認ムル者ガ酒類ノ製造ノ免許ヲ申請シタルトキ
五 酒稅保全ノ爲ニシテ製造又ハ販賣ノ統制上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムルトキ

六 前各號ノ外取締上不適當ト認ムル者ガ免許ヲ申請シタルトキ

第十九條 酒類ノ販賣業(販賣)ノ製造場又ハ販賣場ノ移轉ニ付テハ其ノ製造場ノ製造免許ヲ移轉シタルトキハ政府ノ許可ヲ受ケルニ付

第二十條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場ノ移轉ニ付テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ付

第二十一條 酒類ノ販賣業(販賣)ノ製造場又ハ販賣場ノ移轉ニ付テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ付

第二十二條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場ノ移轉ニ付テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ付

酒類庫出税ノ税率ニ依リ算出シタル金額ト支那專賣特別稅法第三十九條ニ規定スル物品稅ノ税率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トス

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ其ノ所持スル酒類ノ種類毎々石數及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

第七十九條 本法施行ノ際製造場ニ存在スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノノ付テハ第三十八條ノ規定ニ拘ラズ酒類庫出税ノ徵收スルニ於テハ前條第一項後段ノ規定ヲ準用ス

第八十條 支那專賣特別稅法第四十八條第一項又ハ第四十九條第一項第二號ノ規定ニ適用テ移出シタル酒類ハ移出シタル酒類ハ之ヲ第三十七條第一項ノ規定ニ適用テ移出シタル酒類ニシテ移出シタル酒類ト看做シ支那專賣特別稅法第五十條第一項第一號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除セラレタル酒類ハ之ヲ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出税ヲ免除セラレタル酒類ト看做ス

第八十一條 酒造稅法第十三條ノ規定ニ依リ提供シタル保證物及同法第十四條ノ規定ニ依リ爲シタル納稅保證命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本法ニ依リ納稅ノ擔保ト看做ス但シ舊法ニ依リ納稅保證シタルノ效力ヲ妨グ

第八十二條 本法施行前舊法及支那專賣特別稅法中酒類ノ物品稅ニ關スル規定ニ基キ爲シタル申告申請檢定検査承認認可命令及監督上處分ニシテ本法中ニ之ニ相當スル規定アルモノハ少ク本法ニ依リ爲シタル申告申請檢定検査承認命令及監督上處分ニ處分ト看做ス

第八十三條 東京府小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造スル清酒及燒酎ノ酒稅ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

一 酒類造石稅 金額ノ三分ノ一ニ規定スル

二 酒類庫出税 一石ニ付十圓

前項ノ酒類ハ内地ノ他ノ地方朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ移出スルモノヲ得ズ

其ノ移出酒類ニ付第二十七條ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石稅及酒類庫出税ノ合計稅額ト第一項ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石稅及酒類庫出税ノ合計稅額トノ差額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ第一種 アルコール分四十五度ヲ超エザルモノ 一石ニ付

第二種 アルコール分四十五度ヲ超ユルモノ 一石ニ付

本法施行前又ハ施行後沖繩縣ニ於テ製造シタル燒酎内地ノ他ノ地方朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ移出スルモノハ其ノ燒酎ニ付第二十七條ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石稅ノ税率ニ依リ算出シタル酒類庫出税ノ税率トノ差額ニ相當スル出港稅課ス

第八十六條 アルコール專賣法第十七條中「酒造稅又ハ酒類及酒精含有飲料稅法ニ依リ製造免許ヲ」酒稅法ニ依リ酒類製造免許ヲ「酒類及ハアルコール含有飲料ノ原料」ヲ「酒類製造ノ原料」ニ改ム

ノ酒類及客器ハ之ヲ沒收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿テザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第一項ニ規定スル地方ニ於テ製造シタル清酒及燒酎ニ付第七十八條又ハ第七十九條ノ規定ニ適用スル場合ニ於テハ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第八十四條 沖繩縣ニ於テ製造スル燒酎ノ酒類造石稅ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

三十三圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓十錢ヲ加フ

百一圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度毎ニ二圓八十錢ヲ加ヘタル金額

第八十七條 樺太酒類出港稅法第一條第一項中燒酎酒精及酒精含有飲料ヲ「酒稅法」ノ燒酎及雜酒ニ改メ同條第一項ノ割合ニ依リ算出シタル金額トシテ其ノ稅額トス

〔參照〕

明治十九年三月廿九日法律第二十號酒造免稅法抄錄

第十三條 酒類ノ製造者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込石數一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ算出シタル石數ニ相當ナル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受テ酒造免許ヲ得度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルモノトシ得

毎酒造年度ノ見込石數又ハ見込石數前項ノ見込石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應ジ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込石數又ハ見込石數第一項ノ見込石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應ジ前項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ノ製造者ハ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ逃匿ニ關シテ酒類庫出税ノ受付タルキハ爾後二年間政府ノ課稅全額ヲノ保證物擔保ノ金額トシテ得前項ノ場合及保證物ノ價格ノ變動ヲ生ジシ場合ノ外保證物ノ擔保ヲ爲サズ保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 相當ナル納稅保證人可シタルトキ

二 納稅保證トシテ酒稅額ニ相當スル酒類ノ保存スルトキ

三 酒類ノ製造者ハ其ノ屬スル酒造組合ニ於テ納稅ヲ擔保シタルトキ

明治二十年九月廿九日法律第二十一號國稅徵收法抄錄

第四條ノ一納稅人左ノ場合ニ該當スルキハ未納期ノ到リタルモ既に納稅義務ノ確定シタル國稅ノ總額ノ之ヲ徵收スルコトヲ得

一 國稅ノ納納二回リ納納處分ヲ受タルトキ

二 官廳稅其ノ他ノ公課稅ハ徵收ノ擔保ヲ受タル酒類庫出税稅額ニ付酒類庫出税ヲ受タルトキ

三 罰金執行ヲ受タルトキ

四 破産ノ宣告ヲ受タルトキ

五 破産ノ開始アルタルトキ

六 法人解散後ノ遺留タルトキ

七 納稅人逃匿又ハ逃匿後ノ賦課ノ所爲アリト認めタルトキ

第三十三條第一項

酒類及ハ酒類ノ貯藏者ノ占有スル者其ノ財產ヲ破産脫離シタル虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重懲罰ニ處ス

大正五年八月廿二日法律第一號樺太酒類出港免稅法抄錄

第七條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造稅法ニ於ケル燒酎及酒類及酒精含有飲料ト稱スルハ酒類及酒精含有飲料稅法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

昭和十二年三月廿九日法律第三十二號アルコール專賣法抄錄

第十七條 酒造稅法又ハ酒類及酒精含有飲料稅法ニ依リ製造免許ヲ受ケタル者ガ酒類又ハアルコール含有飲料ノ原料トシテ其ノ同一製造場内ニ於テ製造スルアルコールニハ本法ヲ適用セズ

昭和十三年三月廿九日法律第五十一號支那專賣特別稅法抄錄

第四十八條第一項

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ設置場ニ移入ル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シタルハ保稅地域ヨリ引取ル第一種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ適用セズ

第四十九條第一項

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタルハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

一 第一種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品

二 酒類製造ノ用ニ供スル葡萄酒及果實酒

第五十條第一項

左ノ掲グル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス

一 輸出スルモノ

二 學術研究ニ供スルモノ

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

明治三十四年三月廿九日法律第十號酒類酒類其ノ他酒類ノ含有スル飲料輸出入長關ニ關スル件同四十二年三月廿九日法律第十四號關東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造免許ノ規定及同四十二年五月廿九日法律第六號酒類製造免稅法及同法ニ關スル件ヲ

石稅徵收擔保及免除ニ關スル件ヲ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清涼飲料稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和十五年三月二十九日

內閣總理大臣 米内 光政

大藏大臣 櫻内 幸雄

法律第三十六號

清涼飲料稅法中左ノ通改正ス

第三條中七圓ヲ八圓五十錢ニ「十圓」ヲ「二十圓」ニ「三圓」ヲ「六圓」ニ改ム

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際製造場外ノ場所ニ於テ同一入方五石ヲ超ユル數量ノ第二種ノ清涼飲料ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場 其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ清涼飲料稅課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行

ノ日ニ之ヲ製造場外ニ移出シタルモノト看做シ五石ヲ超ユル數量ニ付一石ニ付五圓ノ税率ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料ノ所持者ハ其ノ所持スル清涼飲料ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

〔參照〕

大正十五年三月廿九日法律第十六號清涼飲料稅法抄錄

第二條 清涼飲料ハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料料ト稱ス

第一種 玉ラム糖類ノモノ

第二種 其ノ他ノ糖類ノモノ

第三種 糖類以外ノモノ

第四種 炭酸水使用量一厘ニ付

一 砂糖

第一種 分蜜セザル砂糖

甲 樽入分蜜糖及樽入白糖但シ黑糖及白糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ並ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

乙 其ノ他ノモノ

第二種 其ノ他ノ砂糖但シ水砂糖、角砂糖、棒砂糖、他類似ノモノヲ除ク

甲 蔗糖ノ重量重量ノ百分ノ八十六ヲ超ユルモノ

乙 其ノ他ノモノ

第三種 水砂糖、角砂糖、棒砂糖、他類似ノモノ

百斤ニ付 十圓

百斤ニ付 十圓

百斤ニ付 十二圓五十錢

製造シタルモノニ在リテハ水砂糖ハ百斤ニ付一圓五十錢其ノ他ノモノハ百斤ニ付一圓五十錢

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂糖消費稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和十五年三月二十九日

內閣總理大臣 米内 光政

大藏大臣 櫻内 幸雄

法律第三十七號

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第一條 砂糖、糖蜜、糖蜜糖水ニハ本法ニ依リ消費稅課ス

第二條 削除

第三條 消費稅ノ税率左ノ如シ

一 砂糖

百斤ニ付 六圓五十錢

百斤ニ付 三圓五十錢

百斤ニ付 八圓四十錢